

第3分科会（八戸市）
結集！市民力 まち歩きで探す、新たなまちづくり

●財団法人さかい人づくり
まちづくり基金財団

堀込 勝一

全体会において、主催者代表 岡崎会長のあいさつの中で一番印象に残った言葉は、先ずは行動を起こすこと、という言葉です。昼食会では青森の特産品を使ったオリジナルカレーが特に美味しかったです。13時に分科会会場へ向けてバスにて出発、八戸市まで2時間という長い時間をかけての移動。車中、八戸の安藤昌益のビデオが放映されました。17時半から夕食交流会及び夜なべ談義が行われました。八戸の場合は、自己紹介がメインで酒を酌み交わすだけで、地域づくりや地域をどう活性化させるか問題点など膝を交えての話し合う機会がなく、残念で



した。途中中座し、八戸で昔から行われている豊作を祈願する祭り「えんぶり」を観ました。農具を使っての子供と大人の力強い踊りには感

●財団法人さかい人づくり
まちづくり基金財団

新井 幸司

全体会のテーマは、「出会う、つながる、動き出す」～みんながけやぐ（仲間）青森で～、そして内容は、青森県や全国の地域づくり情報などを参加者全員による三択クイズで楽しみながら紹介する形式で行われました。なるほど、参加させて知ってもらおう、これは地域づくりの第一歩。分科会の八戸市のテーマは、「安藤昌益ゆかりのまちを歩く」～市民力で取り組む中心市街地活性化と観光資源開発～です。



服しました。

2日目は、昌益と八戸の知識人との交友の場となった昌益思想発祥地「天聖寺」を見学しました。バスにて移動後、八戸城跡、櫛引八幡宮国宝館を見学。ここには国宝「赤糸威鎧 兜 大袖付」などが展示されていました。最後の見学は市場八食センターで、このセンターは少し変わっていて、客が好きな魚介類や肉など購入してその場で炭火で焼いて食するという趣向をこらしていました。13時に交流会が終了し、八戸駅まで見送っていただきました。今後の課題は幅広い知識と知恵。さらに行動力ある方や、地域の人たちが参加しやすい環境づくりなど、これからも老骨に鞭を打って頑張っていきたいです。

安藤昌益は、江戸時代中期に八戸に15年間在住した思想家で本業は町医者です。250年前の封建下で、人間社会での平等、自然と人間の共生＝「エコロジー」など現代社会にもつながる考えを書き残した人です。したがって、主体となって出迎えてくれたのは、「安藤昌益資料館を育てる会」の人たちでした。資料館は、平成21年に市街地の中心地の酒蔵を改修して開館しており、夜の検討会では、地域文化の拠点として昌益を全国に発信し、地域の活性化と八戸の街づくりにつなげたいとの説明を聞き、開館1年目にし、今後の活動への意欲を感じました。

翌日は分科会のテーマの文字通り、昌益ゆかりのまち歩きで、ここでも地域づくりの第一歩、「参加させて知ってもらおう」の実践でした。昌益の居宅跡に始まり、昌益思想発祥の地の天聖寺、高札を立てる場所だった札の辻、八戸城跡など街歩きマップの半日コースを見聞しました。

今、当地でも地域活性化組織による「町並み歩き」が12月に予定されているので、このたびの研修交流会の成果を活かしたいと思います。

●財団法人さかい人づくり
まちづくり基金財団

石原 国憲

前夜祭の津軽三味線に大感動し、青森ねぶたの高校生による「跳人」のダイナミックな演技、東北のねばり強さに魅せられました。副知事の歓迎挨拶は県職時代の緑の分権改革・定住自立圏の確立・過疎地域確立をテーマに、一人の思



いが地域を動かす人材力のネットワーク、補助金から補助人、成功事例、課題の共有などの活躍された話に背中を押されました。

分科会は、B級グルメのせんべい汁、安藤昌益、この2点に期待して八戸市第3分科会を選定しました。バスの中では安藤昌益のビデオが放映さ

第11分科会（鱈ヶ沢町）
地域資源を活かした地域再生と協働のまちづくり

●きりゅう市民活動推進ネットワーク 蓼沼 千秋

今大会は青森で開催され、桐生から5時間半かけて行ってきました。東北新幹線が新青森まで開通したことで、都内から3時間10分くらいで行けるそうです。青森のDCは、2011年4～7月で、「行くたび、新しい青森」を合言葉にマスコットキャラクターの「いくべえ」と共に展開されます。群馬も同じ年にDCが始まりますので、いろいろと参考になりました。

前夜祭では、津軽三味線やマグロの解体ショー、ご当地B級グルメなど郷土色たっぷりのおもてなしで歓迎されました。全体会は全国から300名が集い、地域づくり団体と多くの行政関係者の参加がありました。第11分科会の鱈ヶ沢町に参加しました。

鱈ヶ沢は、青森の西、日本海に位置し五能線が走っています。鱈ヶ沢のまちづくりは、行政が事務局となり町内5地区に分かれ公民館に1名の職員が常駐し、町民と協働してそれぞれ特色のあるまちづくりをしています。連絡協議会を作り、防災や防犯、地域福祉などの取り組みをしている事例報告がありました。他に、名物

れ、安藤昌益資料館を育てる会のスタッフから説明を受けました。安藤昌益は江戸初期の思想家・医師・僧侶として封建社会を厳しく批判し、人間本来の生き方は「直耕」働くことにこそあると説きました。また、昌益は力の強い武士が「耕さず、貧り食って」農民を支配しているとし、富める者も貧しいものもない平等な社会「自然世」の実現を迫りました。

人間は相互依存して生きていくべきである（互性）として、「自然に帰れ」と唱えたルソーよりも早く、昌益は「世界最初のエコロジスト」「世界の思想家」と呼ばれています。

それから、中心市街地活性化への熱い思いを持つメンバーと八戸屋台村みろく横町、八食センター七輪村、重要文化財櫛引八幡宮、八戸えんぶり、国宝「赤糸威鎧、白糸威褌取鎧」などの城下町八戸を散策しました。2010年に第1回が開催された「青森県どんぶり選手権」も面白そうなイベントだと思います。

の「イカの生干し」づくり体験や、ミニ白神山地をマタギの吉川さんのお話を聞きながら散策しました。また、北前船の歴史を白八幡宮の宮司さんから、船絵馬を見せてもらいながら伺いました。最後に、鱈ヶ沢の特別観光大使の秋田犬「わさお」くんと記念写真をパチリ！「わさお」くんはネットで有名になり、今ではたくさんの人が見に来るそうです。春にはわさおくんが映画化され、町民や役場の方も出演するそうで、公開が楽しみです。

鱈ヶ沢の豊富な地域資源を活かしての分科会プログラムは、とても充実していました。たくさんの人達と話ができましたが、他の分科会との交流が出来なくて、残念でした。いまいち積極性に欠けており、反省。お国自慢を方言や歌、踊り等で上手に表現できる人がたくさんいました。改めて、伝えることの難しさを感じました。

